２０１５年　６月２４日

広島大学理事（財務・総務担当）
　松ケ迫　和峰　様

広島大学教職員組合
執行委員長　吉田　修

附属学校園の諸問題に関する要求

貴職の日頃の奮闘と当組合活動へのご理解・ご協力に敬意を表します。

さて、附属学校園が抱える諸問題につきまして、これまでの交渉を受け、あらためて下記のように要求します。

つきましては、２０１５年７月１７日（金）までに文書での回答をお願いします。

記

１．以下の諸問題・諸課題について、附属学校園教職員への情報提供と説明を行なうことを求めます。

以下の諸問題・諸課題は基本的かつ重要なものであるにも拘らず、附属学校園教職員のほとんどが充分な情報提供も説明も受けておらず、附属学校園の現場では関連する諸問題を抱え、また、自らの今後のあり方も含めて大きな不安を有しています。

なお、これらは附属学校園の全体に関するものであることから、その説明は附属学校園本部が責任を持って行なうべきものと考えます。

(1) 附属学校園の将来ビジョンについて

①附属学校園の教育・研究活動等に関する中・長期的基本方針について

②附属学校園の再編計画の現状と今後について

(2) 附属学校園の運営方針について

①附属学校園教員の人事計画（大学採用者の増加方針、学外との人事交流、学内異動等）について

②人事交流における附属学校園の研修機能について

③共通校務システムの内容について

なお、上記「将来ビジョン」と「運営方針」の諸事項について附属学校園教職員への情報提供と説明が行なわれた後、当組合としては、改めて各附属支部組合員の意見等を集約し、当組合の対応を検討する考えです。

２．人事交流について、短期間での終了をできるだけ防止するとともに、「上限６年」を一律適用することなく、各学校園の実態や本人の希望等を充分に勘案して柔軟に上限延長が可能となる

ように求めます。

短期間での頻繁な人事交流が附属学校園教員の負担を増加させることはこれまでも指摘して来ましたが、交流の目的及び附属学校園の円滑な運営のためにも交流期間の上限について柔軟に対応することが必要と考えます。

３．再編計画室の人員配置を見直し、附属学校園の現場への人員配置を重視することを求めます。

2014 年 11 月 17 日の団体交渉で、再編計画と再編計画室へ配置している人員の業務について、「いつＧＯ（ゴー）となるか分からないが、それが出てからやったのでは 3～4 年掛かる。ＧＯが出たとき即応できるように細かい部分も検討してもらっている」旨の回答を受けました。

しかし、附属学校園の現場の多忙さを考慮すれば、「いつＧＯとなるか分からない」から「いつまでも」ではなく、一定時期での区切りを行ない、多忙な現場への人員配置へ転換すべきものと考えます。

４．常勤教員枠における常勤教員の確実な早期確保を求めます。

常勤教員枠の常勤教員が確保できず、非常勤講師が配置されるケースが依然として見受けられます。

５．共通校務システムと各附属学校園の現行校務システムとの関係について

共通校務システムの内容が把握できていませんが、各附属学校園が長期にわたって既に導入している校務システムは各附属学校園の実態に合うものに改良されて来ています。したがって、それをまったく反故にして新たなシステムを導入することは、当該新システムが現行システムを包括的に改良したものでない限り、大きな負担を各附属学校園教職員へ強いるものとなります。この点については十分な配慮が必要です。

また、各附属学校園が新たな共通校務システムを導入する場合、現行システムのデータについては新システムへプログラムで移行するように求めます。

以　上